

第7回アフリカ開発会議の横浜開催決定！

本日（6月16日）、「第7回アフリカ開発会議は2019（平成31）年に横浜で開催する」ことが政府から発表されました。

林市長をはじめ、関係者のコメントは、以下のとおりです。

《林 文子 横浜市長（第7回アフリカ開発会議横浜誘致推進協議会会長）》

2008年の第4回、2013年の第5回会議に続き、来たる第7回アフリカ開発会議も横浜で開催されることが決定しました。この上ない喜びであり、開催自治体の長として、改めて身の引き締まる思いです。オール横浜で会議が盛り多いものとなるよう支援し、アフリカと日本の関係強化に貢献してまいります。

誘致推進協議会の市内・県内の経済界をはじめとする関係団体の皆様、そして誘致議員連盟、市会議員連盟をはじめ御一緒に誘致に取り組んでいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

過去2回のアフリカ開発会議開催によって培ってきたアフリカとの技術協力、市民交流などの取組を土台に、「アフリカに一番近い都市」として、会議の成功に確実に貢献し、アフリカとの絆を一層深めてまいります。

《松本 研 横浜市会議長》

横浜市会は、過去2回のアフリカ開発会議の横浜開催を契機に、アフリカとの交流を深めてきました。そして、今年2月に全会一致で「第7回アフリカ開発会議の横浜開催を求める決議」を行うとともに、5月には、誘致推進協議会として、内閣官房長官や外務大臣政務官に要望行動を行うなど、全力で誘致に取り組んできました。そのような中で、横浜開催が決定し、大変喜ばしく思っています。

会議の開催を通して横浜全体を盛り上げることができるよう、横浜市会として、成功に向けて協力していきます。

《佐藤 祐文 日本アフリカ友好横浜市会議員連盟会長》

日本アフリカ友好横浜市会議員連盟は、ブルキナファソなどのアフリカ各国との交流や、ベナン共和国コトヌー市の訪問、アフリカンフェスティバルよこはまをはじめとした横浜市内のアフリカ関連イベントへの参加など、これまでアフリカとの交流に多く取り組んできました。これらの活動をしてきた中で、横浜開催が決定し、大変嬉しく思っております。

今後も、より一層アフリカと横浜の絆を深められるよう活動するとともに、会議の成功に向けて協力いたします。

《小此木 八郎 衆議院議員（第7回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟会長）》

第7回アフリカ開発会議の横浜開催が決まったことは大変喜ばしく、横浜にとって大きな意義があります。

菅内閣官房長官や齋藤外務副大臣への要請活動などを通じ、地元の熱意や、国際会議の開催地としての高い能力が国に伝わった結果だと考えます。超党派で設立した「第7回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟」の活動にお力添えいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

会議の成功に向けて、今後も引き続き、サポートしていきたいと思っております。

お問合せ先

国際局国際連携課アフリカ開発会議誘致担当課長	鈴木 真実	Tel 045-671-4713
議会局総務課広報・報道等担当課長	梶原 豊	Tel 045-671-3079

1 誘致の経緯について

平成 28 年 8 月 28 日	第 6 回アフリカ開発会議 (TICAD VI) で市長が誘致を表明
11 月 21 日	国への要望行動① (要望主体: 横浜市) 要望先: 武井外務大臣政務官
平成 29 年 1 月 10 日	国への要望行動② (要望主体: 横浜市) 要望先: 菅内閣官房長官
2 月 22 日	市会本会議: 「第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD VII) の横浜開催を求める決議」
23 日	国への要望行動③ (要望主体: 日本アフリカ友好横浜市会議員連盟) 要望先: 菅内閣官房長官、逢沢 AU 議連会長、神奈川県選出国会議員等
3 月 24 日	神奈川県議会本会議: 「第 7 回アフリカ開発会議 (TICAD VII) の横浜開催を求める決議」
5 月 25 日	神奈川県選出国会議員「第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟」設立(1)
同日	国への要望行動④ (要望主体: 第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟) 要望先: 菅内閣官房長官、藪浦外務副大臣
29 日	「第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致推進協議会」設立(2)
30 日	国への要望行動⑤ (要望主体: 第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致推進協議会) 要望先: 菅内閣官房長官、武井外務大臣政務官

(1) 第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致議員連盟

構成: 神奈川県選出国会議員有志 37 名 (平成 29 年 6 月 16 日現在)
 会長: 小此木八郎議員
 副会長: 山際大志郎議員、後藤祐一議員、上田勇議員
 事務局長: 坂井学議員

(2) 第 7 回アフリカ開発会議横浜誘致推進協議会

構成: 市内・県内 27 団体
 会長: 横浜市長
 副会長: 神奈川県議会議長、横浜市会議長、日本アフリカ友好横浜市会議員連盟会長、
 横浜商工会議所会頭、神奈川県経営者協会会長
 特別顧問: 神奈川県知事
 顧問: 神奈川県選出国会議員有志 34 名 (平成 29 年 6 月 16 日現在)

2 アフリカ開発会議とは (TICAD: Tokyo International Conference on African Development)

アフリカの開発をテーマとする国際会議。1993 年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP)、アフリカ連合委員会及び世界銀行と共同で開催している。

1993 年からこれまでに 6 回開催され、次回第 7 回は 2019 年に開催される。2008 年の第 4 回、2013 年の第 5 回アフリカ開発会議は横浜において開催された。第 5 回会議では、「躍動のアフリカと手を携えて。」との基本メッセージの下、アフリカ開発の方向性について議論が行われた。39 名の国家元首・首脳級を含むアフリカ 51 か国、31 か国の開発パートナー諸国及びアジア諸国、72 の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターや NGO 等市民社会の代表等 4,500 名以上が参加し、我が国が主催する最大規模の国際会議となった。成果として「横浜宣言 2013」「TICAD V 横浜行動計画 2013-2017」が採択された。首脳会合前日の 5 月 31 日には、閣僚級事前会合が行われ、6 月 1 日には、野口英世アフリカ賞授賞式・記念晩餐会が天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催された。

3 第5回アフリカ開発会議における横浜市の主な取組

「アフリカ、ともに成長するパートナーへ。」のテーマの下、「ともに成長する」「身近に感じる」「おもてなしする」の3本柱で様々な取組を実施

(1) 「ともに成長する」

- ◆一校一国運動
 - ・在京大使館を有するアフリカ38か国を対象に、市立小中学校69校が参加。
 - ・対象国の文化・歴史・生活等の学習や、大使館関係者等との交流。
- ◆ビジネス機会の提供
 - ・TICAD Vアフリカ・シンポジウム等ビジネスセミナーを開催（計7回 約850人参加）
 - ・アフリカン・フェア2013（約57,000人来場）にてブース出展（約3,200人来場）。
- ◆女性の活躍と経済成長
 - ・バンダマラウイ共和国大統領（当時）の記念講演及びパネルディスカッション。
 - ・シンポジウムでの議論内容を6月2日の「テーマ別会合」で林市長が報告。
- ◆アフリカ応援キャンペーン
 - ・「レッドカップ for アフリカ」キャンペーン…42事業者参加、寄附金4,137,598円
 - ・WFP ウォーク・ザ・ワールド for アフリカ…3,593人参加、募金額3,350,600円
 - ・「はまっ子どうし THE WATER」TICAD V支援ボトル…JICA基金への寄附金848,088円

(2) 「身近に感じる」

- ◆一駅一国運動
 - ・アフリカトラベル スタンプラリーを市営地下鉄全40駅の各国紹介コーナーで実施。
 - ・地下鉄ブルーラインにおいて特別電車「アフリカ号」を運行。
- ◆横浜アフリカ月間
 - ・ザよこはまパレードを皮切りに横浜開港祭まで、市内各所で開催されるアフリカ関連イベントを一体的にPR（全47イベント）。
- ◆アフリカン・フェスタ 2013
 - ・浦島丘中学校（神奈川区）吹奏楽部のステージや一校一国運動の活動発表を実施。
 - ・横浜市ブースを出展し、ズーラシア「アフリカのサバンナ」等を紹介。

(3) 「おもてなしする」

- ◆街の歓迎装飾
 - ・会場及び市庁舎周辺にてバナーフラッグ、横断幕、大懸垂幕、交通局所有バス車両840台へのバスマスク掲出。
- ◆子どもたちによる各国首脳のお出迎え
 - ・全体会合に参加するアフリカ各国首脳を約100名の子どもたちが各国国旗などでお出迎え。
- ◆市民ボランティアによるおもてなし
 - ・ホテルやJR桜木町駅改札等にて市民ボランティアが誘導案内を実施。

4 第4回、第5回アフリカ開発会議の本市への影響

(1) 経済波及効果（単年度）（JNTOの簡易測定システムによる試算）

第4回アフリカ開発会議は15億70百万円、第5回アフリカ開発会議は21億50百万円。

(2) パブリシティ効果（下記の通り）

調査対象期間 : 平成24年2月1日～平成25年6月30日
調査対象媒体 : 新聞・ウェブ・TV・CATV・ラジオ・雑誌
露出件数 : 2,388件
広告価値換算額 : 114億34百万円（税込）